

教宣 せぶん

他人任せにしないこと

漠然と転身支援金をもらおうと思っている人の中には、「退職願 兼 『転身支援条件』適用申請書」なる書類の存在を知らない人がいます。その書類に印鑑を押さなければならないことを知らない人がいます。また「今になって達成率100%を割ると支援金を減らすと会社が言い始めた」と言っている人もいます。自らの人生の大切な選択の時に、その選択を「他人任せ」や「多くの人がこっちの道を選ぶから」という感覚で決めている人が、こういった「現象」に陥っていると感じます。

私たちは合併が発表されて以来、人生を左右するような大切な「選択」を迫られました。ひとつは東海経営の分裂策動に伴う「組合」の選択。ひとつはいま迎えている制度廃止に伴う「進路」の選択です。「組合」の選択では、「長いものに巻かれる」という選択、すなわち全損保に残ろうと決断した私たちは、この道を選ぶことがどういう道になるのか、相当の覚悟をしたうえで選択したはずです。大方の流れに逆らった選択をするわけですから、情報を集め、勉強し、本質を見抜き、一人ひとりが自己責任のなかで判断しました。また「進路」の選択では、例えば提訴団に入ろうと決めた人は、巨大な資本と人生を賭けてたたかうわけですから、過去の「判例」を研究し、「弁護士見解」や「議案書」を熟読し、信頼できる仲間との情報交換を密に行い、確信を持って、これも自己責任で決断したはずです。提訴団に加わらなかった仲間も、私たちの組織が狡猾な東海経営から攻撃的にされているわけですから、当たり前のことですが、転身支援条件がどういうものなのか、経営の狙いや本質が何なのか、しっかり理解したうえで今日を迎えているはずです。

「寄らば大樹の影」的な人生を送っている人は、組合選択時も、進路選択時も、人生における大切な選択の時という認識をもっていないのかもしれませんが。こういう人に限って、事が済んで損をしたと思った時に「何も情報を知らせてもらえなかった」とか「どうして教えてくれなかったのだ」と言うのではないのでしょうか。「退職願 兼 『転身支援条件』適用申請書」も「転身要件」も、何らかの形で必ず説明を受けているはず。そういう貴重な情報を、隅に追

いやり、すべてを他人任せにしたツケが冒頭の現象となってあらわれていると思います。

私たちは「自らがこの企業で生き残る」ために、また「選択の先が不利益を被らない」ために、ピラを配り、署名を集め、社前で抗議をし、都労委に出向き、裁判にも訴えるなど、日々奮闘努力しています。自分の掲げる目的を達成するために自らが汗をかいています。目的も自分で決められず、汗をかくことも忘れた人たちは、いつかそのツケが自分の人生に訪れた時に、自らが決断しなかった「甘さ」を嘆くのでしょうか？